

「A 話すこと・聞くこと」



導入で「学習意欲」を高めた上で、展開では、めあてを達成する上で必要な「話す能力」「聞く能力」が身に付いているか、確認しながら授業を進めていくことが大切です。

展開（活動）でのポイント

- 単元で身に付けさせたい「話す能力」「聞く能力」の技能を洗い出し、指導する場を設ける。
 - ・ 1単位時間の中で、めあて達成のために必要な技能は具体的に指導する。
 - ※ 能力・・・総合的な力
技能・・・何かをするときに発揮される力
- 「話す・聞く」場の工夫を行う。
 - ・ ペア、グループ（3人、4人・・・）
- 学習内容を視覚化する。
 - ・ 図や表、写真など話すときに活用
 - ・ 話すためのメモ、聞いたことをメモ
- めあてを意識して、話したり聞いたりさせる。
 - ・ 学習指導要領の指導事項と活動とのつながりを明確に
 - ・ 目的意識をしっかりとち活動
- 学習の流れが分かる工夫を行う。
 - ・ 板書や掲示資料を活用
- 個に応じた指導を工夫する。
 - ・ つまづきに応じた指導
 - ・ 意欲を高める声かけ

終末（まとめ）でのポイント

- めあて、活動との整合性のあるまとめとする。
 - ・ めあてが「資料を活用して」なら、まとめでも「どのように資料を活用することが効果的か」ということについてまとめる。

- 多様な方法で評価を行う。
 - ・ 自己評価と相互評価
 - ・ パフォーマンス評価
 - ※ 実際の活動で評価する。
 - ・ 録音機を活用した評価
 - ・ 話すため、聞くための「メモ」で評価
 - ・ 国語日記や感想でまとめる。
 - ※ めあての観点を必ず入れて書く。

- まとめ視覚化
 - ・ 提示の仕方を工夫（視覚化）



「話すこと・聞くこと」は音声言語で行います。そのため、文字言語と比較したとき、最も異なる性質は「その場限りで消えていく」ということです。

評価は、この短所をどのように補うかを工夫する必要があります。

そのために、録音やメモ、表現活動など多様な評価手段を講じてください。